

| | |
|---------|---|
| 科目名 | 予算制度論 |
| 担当者 | 小林麻理 |
| 配当学期 | 春学期 |
| 単位 | 2単位 |
| 授業概要 | NPM を実践している諸外国の財政改革は、まさに予算制度改革ということができ、予算制度は公会計システムの中核をなす重要なテーマである。コントロール志向、プランニング志向、マネジメント志向による予算システムとは何かを学び、単なるインプット・コントロールではなく、アウトプット・コントロール、さらにはアウトカム評価から次期予算にフィードバックを行うことを可能にする予算制度の本質を明らかにし、さまざまな予算管理の手法を検討する。 |
| 授業の到達目標 | 予算制度の仕組みにはさまざまな考え方があり、財政改革において重要な機能を果たすことを理解する。 |
| 授業計画 | <p>第1回 予算制度の意義と米英における財政改革の経緯</p> <p>第2回 日本のパブリック・セクターにおける予算制度</p> <p>第3回 パブリック・セクターにおける予算制度の多目的性</p> <p>第4回 予算編成サイクル・プロセス</p> <p>第5回 予算制度に係るアクター</p> <p>第6回 予算編成手法(1)―費目別予算</p> <p>第7回 予算編成手法(2)―PPBS―</p> <p>第8回 予算編成手法(3)―ゼロベース予算―</p> <p>第9回 予算編成手法(4)―業績予算―</p> <p>第10回 ベンチマーキングと業績予算―事例：オレゴンシャイン</p> <p>第11回 予算プロセスとPDCAサイクル</p> <p>第12回 予算制度改革の課題と展望</p> <p>第13回 受講者のプレゼンテーション及びディスカッション</p> <p>第14回 受講者のプレゼンテーション及びディスカッション</p> <p>第15回 総括</p> |
| 教科書 | 特に指定しない。毎回資料を配布する。 |
| 参考文献 | 授業において適宜紹介する |

| 成績評価方法 | 評価基準 | |
|--------------|--|--|
| 試験 % | | |
| レポート % | | |
| 平常点評価 40% | 授業で取り上げた論点に関する発言の積極性と授業理解促進への寄与度、出席は原則3分の2を下回らないこと。 | |
| その他 60% | <p>授業におけるプレゼンテーションの内容（問題設定の適切性、問題意識、アプローチ、論点整理）及びプレゼンテーションに対する質疑応答。</p> <p>本授業では、授業の後半に授業で取り上げたテーマについて自由に発表者が問題設定を行うプレゼンテーションを課しています。発表時間は25分から30分、質疑15分から20分を予定しています。</p> | |
| 関連 URL | | |
| 備考 | 授業について要望、質問等は積極的に、 mariky@waseda.jp にコンタクトすること。 | |